

学校法人行吉学園  
神戸女子短期大学  
機関別評価結果

平成22年3月18日  
財団法人短期大学基準協会

## 神戸女子短期大学の概要

設置者	学校法人 行吉学園
理事長名	行吉 誠之
学長名	波田 重熙
ALO	長瀬 荘一
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	兵庫県神戸市中央区港島中町4-7-2

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
総合生活学科		150
食物栄養学科		140
幼児教育学科		100
	合計	390

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	保育専攻	50
	合計	50

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

神戸女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 20 年 6 月 19 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

教育基本法を建学の精神とし、時代に即した女子教育を展開するため常に教育理念を点検し、平成 19 年度に「自立心」・「対話力」・「創造性」の 3 語に集約した。周知の仕方は一般的な方法のほか、施設や伝統行事により全学的に浸透するよう工夫されている。各学科ではこの理念の下で、教育目的・目標を設定し、教育課程の運営がされている。教育内容は多様なニーズに対応するため、単位互換制度も取り入れて履修科目、方法の多様化を図り、教養科目は女子教育として特色ある編成をしている。授業改善はファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会が推進母体となり、授業研究等が行われ、学生による授業評価の結果はウェブサイトでも公表されている。

教員数、校地等は短期大学設置基準を上回り、ハード面も整備されていて、教員は積極的に職務に専念している。図書館も充実し、他大学との利用協定もあって学生の利用も多い。ここで学ぶ学生の単位や資格の取得状況、専門就職や休退学者数、就職や編入学先からの評価等からみて、教育目標はおおむね達成しているといえる。

入学支援、学習支援、生活支援、進路支援にも様々な取り組みがなされており、大学生活はクラス担任制で支えられ、ホームルームが時間割に組み込まれている。資格取得対策や読書奨励のほか、基礎学力不足者にはリメディアル教育も開講している。学生のキャンパス・アメニティへの配慮も十分で、クラブ活動も活発である。就職支援組織も完備されており、就職内定率は高い。

教員の研究活動への予算は多く確保され、国や財団の研究資金申請者も多いが、学生指導に傾注して業績の少ない者もある。社会的活動は学内外で公開講座を実施し、自治体や教育機関とも連携協定を結んで地域活動に貢献している。これらの活動の中でボランティアに励んだ学生に対して「ブルーム賞」が贈られ活動の奨励をしている。

管理運営は、理事長及び学長の適切なリーダーシップの下で運営され、事務組織、諸規程、諸帳簿も完備し、理事会、評議員会、教授会も適切に運営されている。

財務経営状況は消費収支において支出超過状態にあるが、平成 22 年度に均衡を図るべく全教職員の意思統一のもと改善努力している。予算部門、管理部門等は適切であ

る。改革・改善への取り組みは、学内の自己点検・評価運営委員会を点検部、評価部の2部制とし、各部署は点検評価に改善目標、改善計画を付して報告し、それを評価部が評価するシステムであり、注目される。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神を具体化する課題に対して研究助成を行う制度は、ユニークな取り組みである。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 女性教育を基盤とした6分野からなる教養科目の設定と教授内容は、建学の精神に則して工夫されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館利用促進のため「図書館ツアー」や「読書マラソン」を企画し、気軽に利用できる雰囲気づくりの取り組みを行っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学科ごとのオリエンテーション時に「ティータイム時間」を設け、学生や教員間の親睦を深めている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 教職員の顕著な貢献に対する理事長賞や学生のボランティア活動に対する「ブルーム賞」は、教職員や学生の士気を鼓舞するものとなっている。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

- 学内の自己点検・評価運営委員会に評価文化を浸透する「点検部」と、各部署の点検・評価を評価する「評価部」を設け、改善目標や改善計画を含めて全学的に点検・評価する体制を整備し、評価文化の深化・充実を図っている。

#### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 短期大学案内と学生便覧のアドミッションポリシーがやや異なるので、その統一が望まれる。

#### 評価領域Ⅵ 研究

- 恵まれた研究環境条件ではあるが、教員の研究活動において必ずしも活発でない状況がみられるので、その活性化が求められる。

#### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

教育基本法の精神を建学の精神とし、戦後の新しい女子教育を推進するため、5項目からなる教育綱領を定めた。その後、点検により今日的表現で再定義が行われ、これを全学に浸透を図るため、「自立心・対話力・創造性」の標語(モットー)に集約した。各学科では、これを受けて教育目標の点検を行い、具体的な表現による目標が設定され、教育研究が進められている。

建学の精神・教育理念等の周知は、一般的な取り組みのほか、行吉学園記念室や学祖の胸像を置く語らいロビーを設け、また、学祖の母なる愛に始まった「西瓜祭」の伝統を受け継ぐなど、自然に浸透させる取り組みもなされている。教職員には、建学の精神を具体化するための研究助成制度もあり、建学の精神を柱とした全学的な教育課程経営がされている。

大学・短期大学合同の自己点検・評価委員会が恒常的に開かれ、短期大学内では学科会議、部科長会で点検の議論を行っている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

学祖の女子の特性を生かす教育の理念を機軸にして、学生の多様なニーズに対応できる教育課程を編成するとともに、学園内四年制大学及び近隣の4大学とも単位互換制度を締結し、教育内容や履修方法の多様化を図っている。

とりわけ教養科目は芸術入門(10講座)、女性学入門(8講座)、情報入門(2講座)、語学入門(17講座)、神戸学入門(2講座)、生活学入門(9講座)からの選択であり、どの講座も女子教育の理念で構成された教育内容となっている。また、時間

外活動としてスクールサポーターや学童保育、野外活動、子育て支援の補助員としての取り組みもあり、理論と実践の融合を図っている。

学生には学生便覧とシラバスで周知し、履修の手引きで卒業生の就職と科目選択の事例をあげるなど工夫されている。授業改善の取り組みは、FD委員会を中心に推進され、学生による授業評価は印刷物のほかウェブサイトでも公表し、分析結果は研修会で取りあげ、授業研究もされている。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

短期大学設置基準に合った教員数が確保され、教員は、授業、研究、校務に積極的に取り組み、教員にふさわしい資格と資質を有している。

短期大学設置基準を満たす校地・校舎を有し、授業を行うのにふさわしい講義室、実験・実習室、演習室、情報機器が整備され、運動場や体育館も有し、ハード面からは問題ない。

図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数、図書館の広さなどは適切で、学生も活発に利用している。ポートアイランドにある4大学と相互利用協定を結ぶなど学外への活動も活発に行われている。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定方法・取得割合、退学、休学、留年等の全学生に占める割合、資格取得割合などから判断して、教育目標の達成度は妥当な範囲である。教員は、授業終了時に自主的に学生によるアンケートを実施するなどして学生の満足度に配慮している。神戸女子大学や他大学への編入希望者には説明会を実施したり個別指導したりして、適切に対応している。

食物栄養学科、幼児教育学科や専攻科保育専攻では専門就職率は高い。卒業生の就職先からの評価は、企業訪問や就職説明会で聞き取りを行い、就職者へのアンケートは実施しているが、就職先へのアンケートは行っていない。卒業生とは学科ごとに交流行事を実施している。また、神戸女子大学などの編入先からは高く評価されている。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

短期大学案内には建学の精神・教育理念等が明示されてはいるが、アドミッションポリシーの明確化など若干の訂正が望まれる。募集要項、広報・入試事務などは問題ない。

入学時のオリエンテーション、各学期開始日の前日、及び週1回のホームルームで学習支援のガイダンスが行われ、印刷物も発行されている。基礎学力が不足する学生に対する組織的な支援は学科内で検討中であり、学習上の悩みなどに対しては、クラスの担任・副担任、保健師、臨床心理士が対応している。優秀学生に対する配慮や学習支援も行われている。学生支援委員会、保健管理委員会、学生部懇話会など、体制

が整備され、学生の心身の健康管理に十分対応できている。

就職・進学に対しては進路指導委員会とキャリアサポートセンターが整備され、学生に必要な情報が提供され、資格取得、就職試験対策などの支援がされている。そのために就職希望者に対する内定率は高水準である。編入希望者には進学説明会が定期的開催され、外部講師による「大学編入ガイダンス」も実施され、効果をあげている。社会人や障がい者を受け入れており、その支援体制も整備されている。

## 評価領域Ⅵ 研究

多くの教員が社会的活動にかかわり、地域貢献している。学内での研究グループも行政と共催して毎年シンポジウムを開催したり、他大学と連携して教材開発をしたりするなどしている。研究や旅費に係る諸規程は整備されている。現在は緊急改善宣言が進行中のため 50 パーセントの支給となっているが、出版助成や研究助成の制度もあって研究活動の奨励がなされている。研究用図書費も他大学に比して多く予算化されていて、研究日も保障され、研究室及び研究備品等、研究環境の整備も適切である。学務分掌として位置付けた編集委員会は、毎年研究紀要を発刊し、併せて教員の活動内容や研究懇話会の記録を集録している。

外部研究資金への申請も年に 10 件程度あり、各年 1 件が採択されているが、研究実績は一部の限られた教員に偏り、全体としては必ずしも活発な状況とはいえないので、その活性化が望まれる。

## 評価領域Ⅶ 社会的活動

当該短期大学では、社会的活動を社会からの信頼と教育・研究の手掛りを得る貴重な活動と位置付け、ほぼ全教員がかかわっている。大学と共催のオープンカレッジのほか、独自に 5 講座を開設、例年多くの受講者を集めている。また、自治体、商工業団体、教育機関との連携事業を数多く持ち、委員、講師、企画協力など多様な立場で活動している。さらに文部科学省の委託事業である、フリーター・ニート・主婦のための再チャレンジ支援講座も地域の諸団体と連携して推進中である。

学生のボランティアは、その精神の高揚とコミュニケーション能力の育成の場として推奨し、各種団体との連携によるもののほか、クラブやグループで数多くの活動が行われ、年間これに励んだ者には「ブルーム賞」を学長が授与し顕彰している。国際交流はハワイにセミナーハウスを設け、ハワイ大学と連携した語学研修を実施している。教員は年に数人ずつであるが海外研修に出ている。

## 評価領域Ⅷ 管理運営

理事長のリーダーシップは適切に発揮されており、理事会及び評議員会も定例的に開催され、適切に運営されている。常任理事会が隔週で開催され、日常的な意思決定も適切に行われている。監事は、日常的に監査業務を行っており、理事の構成につい



ても著しい偏りはない。

また、学長のリーダーシップは適切に発揮されており、教授会も定期的開催され、教育研究上の各種委員会も設置され、適宜開催されている。部科長会が毎週開催され、教授会や理事会への提案に先立って審議されている。

学校法人及び短期大学の事務組織は、規程に基づき整備されており、規模及び職員配置も適切である。稟議規程や事務室等も整備され、適切に事務処理がなされている。

教職員の就業規則、給与規程は整備されており、人事管理も適切に行われている。法人と教職員、教員と事務職員の関係も良好である。就業環境についても点検活動が行われている。

#### 評価領域Ⅸ 財務

予算は、常任理事会が予算編成方針を示し、各部門からの申請に基づき、常任理事会の承認を得た上で、評議員会の同意を得て理事会において決定している。予算の執行は、予算執行書に基づき予算管理者等の決裁を経て適正に執行されており、監事及び監査法人による監査も適切に実施されている。

経営状況は、消費収支において支出超過となっており、学園収支緊急改善宣言で収支均衡を図る方針を示し、学生定員充足による収入確保と経常経費等の見直し・削減など、改善の努力がされている。教育研究経費比率は全国平均より高くなっており、教育研究用の施設設備費や図書費についても適切に配分されている。

短期大学に必要な施設設備は整備されており、経理規程等が整備され、施設設備、物品等は適切に管理されている。消防計画等を作成し、消防訓練・避難訓練も毎年1回実施されている。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価の規程や体制が確立し、全学教職員で改革改善への取り組みがなされている。とりわけ、各部署での点検・評価は、改善目標と改善計画を付して報告され、その報告を学内評価部で評価して報告書を編集、全体会で共通認識を図り、改善に取り組むシステムである。これは、個々人が、建学の精神を基に、より鋭い視点で自己の業務の点検を行い、また、改善への取り組みは共通理解の上で実施されており、評価文化の深化・充実を図っている。

点検・評価は、ALOを中心とした自己点検・評価運営委員会と部科長会が軸となり、他大学との相互評価も実施され、焦点を絞った項目については詳細な評価交換がなされている。